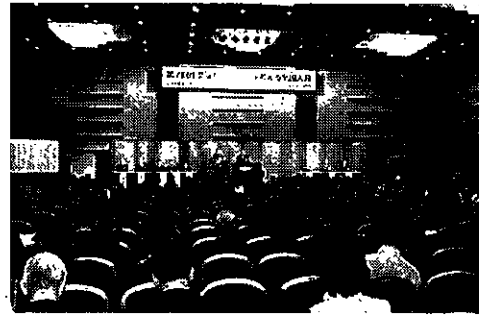


循環型社会形成へ連携

産廃全国大会
仙台で開催 450人参加し討論

「第7回産業廃棄物と環境を考える全国大会」(主催・全国産業廃棄物連合会、日本産業廃棄物処理振興センター)が12日、宮城県仙台市内のホテルで開催された。今回は「循環型社会形成のためのアプローチ」が大会のメインテーマ。基調講演やパネル討論が行われ、全国から約450人の関係者が参加した。また、16人の産廃業関係者が循環型



全国から多くの関係者が参加した

「第7回産業廃棄物と環境を考える全国大会」(主催・全国産業廃棄物連合会、日本産業廃棄物処理振興センター)が12日、宮城県仙台市内のホテルで開催された。今回は「循環型社会形成のためのアプローチ」が大会のメインテーマ。基調講演やパネル討論が行われ、全国から約450人の関係者が参加した。また、16人の産廃業関係者が循環型



國中会長



谷津部長

社会形成推進功労者等環境大臣表彰を受賞した。開催に際し全国産業廃棄物連合会の國中賢吉会長は、「産業廃棄物処理業は出てきた廃棄物を適正に処理するという従来の役割に加え、循環型社会の形成に向けた新しい役割が社会的に期待されるように努めてきている。循環型社会を形成す

るには行政、産業界、我々処理業界等がそれぞれの役割に応じた取り組みを進めるとともに連携・協働を行っていくことも不可欠だ」などとあいさつした。

基調講演では環境省廃棄物・リサイクル対策部の谷津龍太郎部長が、「産業廃棄物行政の現状と課題」と題して講演。循環型社会形成と低炭素社会実現の双方を組み合わせた施策の重要性を強調し、廃棄物分野での温暖化対策として、「バイ

「循環型社会形成のためのアプローチ」のテーマで行われたパネル討論会には国、自治体、排出事業者、処理業者の関係者が参加。それぞれの立場で循環型社会に向けた取り組み、課題などについて説明した。コーディネーターを務めた猪股宏東北大学教授は、将来に向けたキーワードとして「意識から行動」、「情報共有」、「地域連携」などを挙げた。

産業廃棄物と環境を考える全国大会 第二次循環型社会到来

電マニ2010年までに50%普及へ

「第7回産業廃棄物と環境を考える全国大会」が11月12日仙台で開催された。主催者代表として(社

全国産業廃棄物連合会の國中賢吉会長は「行政、産業界、処理業、それぞれの役割を務めるとともに、循環型社会の方策についてみなさまと考えていきたい」と述べた。

環境大臣表彰式典では産業廃棄物関係事業功労が発表された後、谷津龍太郎環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長による「産業廃棄物

行政の現状と課題」の基調講演が行われた。谷津部長は「中国の輸出が止まったことで国内で値崩れがおきている。有価で回っていたものが回らなくなり、不法投棄が懸念される。また、処理業者にかかってくる負担は何物にも変えることができません。廃棄物行政としてどうスピード対応すればよいのか。うまくハンドリングできる仕組みを作らなければいけない。皆様に現場の状況、情報を聞かせて頂きたい。また、10年までに電子マニフェストを50%普及させた。本格的な第二次循環型社会形成の時期が来ている」と述べた。

その後のパネル討論会「循環型社会形成の

ためのアプローチ」ではさまざまなパネル討論が行われ幕を閉じた。



全国大会の様子